

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：アイン高島台保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：遠藤 裕司	定員（利用人数）：60(58)名	
所在地：〒221-0833 横浜市神奈川区高島台27-1		
TEL：045-324-4158		
ホームページ： https://www.ein-group.com/facility/takashimadai/		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2014年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：中央出版株式会社		
職員数	常勤職員：8名 非常勤職員：6名	
専門職員	（専門職の名称）：名 保育士：14名 栄養士：2名	
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：0歳児室 居室：1歳児室 居室：2歳児室 居室：3歳児室 居室：4歳児室 居室：5歳児室	（設備等） 設備：調理室 設備：調乳室 設備：沐浴室 設備：保育士室 設備：事務室 設備：トイレ 設備：大人用トイレ 設備：テラスデッキ 設備：園庭 設備：エレベーター

③理念・基本方針

<理念>

みらいを生き抜く力を育てる

今の子どもたちが大人になる頃、多種多様な社会問題、環境変化を乗り越えないといけない時代です。

私たちは子どもたちに、挑戦する心、諦めない心、感謝の心を持ち、元気な大人になるための環境を提供します。アイン保育園は、愛情を持った「共育」を実施し、生きる力と夢を持った子どもを育てます。

<基本方針>

1. 安心と安全を第一に考える
2. 子どもと大人が共に学び、成長する
3. 利用者、地域のニーズに応える
4. 豊かな人間性を持った子どもを育成する

＜保育目標＞

1. 自分で考え、行動していける子ども
2. 好奇心・意欲のある子ども
3. 誰からも愛され、思いやりの心を持った子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

＜アイン高島台保育園の特徴的な取組＞（基本情報Ⅰ-3の記載事項）

- 私たち職員は未来を生き抜く力を育てるために、乳幼児期の大切な時期に保育士と子どもが丁寧に関わられる環境を作っています。
- 乳児期は育児を生活の軸とし食事、排泄、睡眠などで保育者と1対1の場面を作り、子どもたちの思いに共感し応答し愛着関係や信頼関係が築けるよう関わっています。そうした関係性ができ、安心できる環境下で夢中になれることを一つでも多く見つけられるよう保育園生活では多くの種まきを出来たらと考えて保育をしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年09月22日（契約日） ～ 2024年03月06日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

⑥総評

【施設の概要】

●アイン高島台保育園（以下「施設」という。）は、平成26年4月1日に、中央出版株式会社（以下「法人」という。）が経営する7つめの保育園として開園しました。施設は、JR横浜駅の北約600m、同駅から徒歩で10分程の大型マンション「プロテ横浜高島台」の東端1・2階を占有しています。周辺は、マンション等の住宅地となっており、施設の道路を挟んだ階段上に上台町公園があると共に、徒歩で5分圏内に台町公園や沢渡中央公園があります。また、所々に緑地もあり、横浜駅から徒歩圏内に位置しながら、静かな環境に恵まれた立地条件を有しています。

●法人は、昭和54年中央出版株式会社を設立後、幼児や小・中・高生の学習教材、学習システム等教育事業を中心に取組んできましたが、平成16年に幼児用家庭教育システム「モンテッソーリ式ブルチノ」を完成させた後、企業理念である社会問題解決の一環として待機児童解消支援を目的に、幼児用学習教材・システムを生かした保育園事業を、平成23年にアイン保育園横浜能見台を皮切りにスタートさせました。法人の認可保育園は現在、横浜市内に6園（能見台・松本町・金沢文庫・弘明寺・高島台・三枚町）、川崎市内に3園（武蔵小杉・武蔵小杉北・栗平）、愛知県内に2保育園、2保育室の計13か所に上ります。

●当施設は、立地上2階がエントランスであり、事務室、3歳・4歳・5歳児の幼児保育室とテラスデッキが設けられ、1階に0歳・1歳・2歳児の乳児保育室と調理室、保育士室、屋外に小さな園庭があります。2階屋外には、約133㎡の土の園庭を有し、外遊びや夏季はプール遊び等の他、野菜、花等をプランターで育てています。

保育室は、東南の角地であり、採光・通風は良好です。さらに、施設のあるマンション屋上には、屋上庭園において菜園が設けられ、施設でも畑を借用し子どもたちが野菜等を栽培しています。また横浜市内やMM21地区が一望できるだけでなく、丹沢の山並みを望むことができる環境があります。

◇特長や今後期待される点

〈特に評価の高い点〉

1. 【特長ある保育】

全アイン保育園は、全ての子どもは自分を伸ばす力（自己教育力）を持っているという考え方の「モンテッソーリ教育」と、子どもたちの主体性を尊重して個々の育ちを大切に「自由保育」を取り入れ、子どもの「みらいを生き抜く力を育てる」を理念に掲げると共に、子どもと保護者、保育士等がお互いに助け合い、子どもと共に育っていく「共育」をコンセプトに、保育に取り組んでいます。アイン高島台保育園は、こうした理念やコンセプトの下、保育目標に、「自分で考え、行動していける子ども」、「好奇心・意欲のある子ども」、「誰からも愛され、思いやりの心を持った子ども」の育成を掲げ、「モンテッソーリメソッドの考え方、教具等を取り入れ、未来を担う子どもたちの豊かな人間形成を目指します」、「子どもたちが見通しをもって安心して過ごせる環境を大切に、一人ひとりの子どもたちの気持ちに寄り添い、丁寧な関わりを通して深い信頼関係と子どもたちの主体的な活動を見守っています」を保育の特長とし、日々の保育に取り組んでいます。保育の特長の後段は、当園の評価の高い点として特筆できます。

2. 【施設運営・人材育成システムの整備及び運用】

法人は、これまで培ってきた教育に関する企業ノウハウを背景に、保育事業を経営し、保育事業の本部組織として、名古屋市内と横浜市神奈川区に保育事業本部（以下「本部」という。）を設けています。保育所運営に当たっては、保育事業の運営方針や、会計、人事を本部で統括し、人事についても、施設の要望等を踏まえながら、昇任・昇格、人事異動、職員採用等、本部の専権事項として行われています。職員研修では、本部主催で年2回「大研修」と、横浜エリアで毎月「アイン保育園研修」があり、施設では、内部研修を行うと共に、本部からの予算を得て外部研修に参加しています。また、系列保育所共通の各種規程が整備され、法改正等に併せて、適切に規程の改廃等が成されており、保育に関するマニュアルも安全・衛生や保育方法等、保育の全ての場面を想定した多岐にわたるマニュアル集が用意されています。また、多様な福利厚生を含め、施設運営・人材育成システムが法人全体として用意・運用され、各施設の運営をバックアップしていることが法人・施設の特長と強みであると評価できます。

3. 【愛着関係を重視した家庭的な保育】

施設は、法人系列保育園と同様に、法人理念に基づき、「モンテッソーリ教育」、「自由保育」、「共育」をコンセプトに保育を行っていますが、比較的小規模な保育園のメリットを生かして、0歳～2歳児までの乳児には保育担当制とし、子どもたちとの信頼関係・愛着関係を築き、家庭的な環境の中で安心・安定した生活を送れるよう丁寧な保育を行っています。3歳～5歳児には自由保育にウェイトを置いた保育に取り組み、自分のリズムで活動を選び、知的好奇心、自立心が育まれるよう目指しています。さらに、「共育」を重視し、保護者と子どもの発達状況を共有しながら、家庭と施設の生活が一体となるよう連携して保育に当たっています。

4. 【風土作りの取組・工夫】

施設では、法人系列の他施設からの異動により、今年度就任した新たな施設長は、従来からの職員、派遣職員、非常勤職員のチームワークとモラルのアップのため、施設長と職員との関係、職員間関係作りに鋭意取り組みました。法人内で行われている1対1（ワン・オン・ワン＝面接・話し合い）を休憩室やランチタイム等の機会を捉え積極的に行うと共に、携帯のLINEや、職員を3グループ（「エピソードトーク」、「よいところさ

がし」、「サンキューカード」)に分けて新たな組織を作り、職員の近況等の披露、職員の良い所を探して職員間でミニ表彰や、日頃の感謝の気持ちを書いたカードを職員間で渡す等、これらの取組により職員との関係作りが進められました。現在は、職員間のコミュニケーションが格段に円滑化され、情報の伝達・共有が図られるようになりました。評価調査での職員との面接でも、職員から職員間の関係の良さが聞かれると共に、どの職員の表情も明るく感じられました。利用者(保護者)アンケートでも、園長が替わってから明るくなった、職員が明るい等の評価が多数寄せられています。

<今後期待される点>

1. 【アイン高島台保育園ブランド作り、さらなる質の向上に向けた取組について】
施設長は、4年目にeNPS指数(職員満足度)+10%を目指し、離職率低下、組織全体の生産性UPを図るため、令和6年度からの3か年計画の実行に向けて準備をしています。職員のアイデアや得意分野を生かしながら、「不適切な保育をなくす」、「事故・事件0」、「活動の発信」、「家庭の育児支援の再開」、「保護者会の再開」、「保育者の保育に向かう姿勢=高島台ルールの明確化」、「地域とのつながり」、「職員の育成と採用」等、現在は十分にできていない分野を3年間でレベルアップし、アイン高島台保育園の独自色が発揮される施設(高島台ブランド)作りを目指しています。さらに、今回の第三者評価で、保護者が期待・要望している諸点についても、真摯に答えると共に、今後の施設運営に生かしていくこととしています。それぞれ取組途上ですが、3年後・5年後の施設がどのように発展しているか、大いに期待されるところです。尚、課題は、こうした新たな取組に対応できる人材の確保です。現員数では、保育のローテーションやワーク・ライフ・バランスの確保に苦慮している状況ですので、法人本部と連携の下、計画が推進されると共に、人材確保についての法人本部の支援が望まれます。

2. 【地域との関わりの活性化について】

コロナ禍に加えて、職員減を伴う施設の体制の変化もあり、子どもたちと地域の関わりが十分に図られていません。さらに、ボランティアや実習生についてマニュアル等の受入れ体制はあるものの受入れ実績が乏しいことが現状です。地域の子育て支援等、施設のノウハウを生かした取組も行われていません。施設長は、3か年計画の課題に、「地域とのつながり」を掲げて取組もうとしています。子どもと地域との関わりでは、近隣のデイサービス事業所との連携や、近隣の商店街との交流、自治会や小学校との交流等を想定しています。ボランティアや実習生の受入れについては、中学校等の体験授業の協力や、近隣の養成校との連携等を想定しています。地域貢献としては、地域の子育て支援のための相談事業に早急に取組みたいと考えている他、災害を想定した近隣住民の避難場所の提供等を想定しています。こうした取組が、一つ一つ着実に実現されていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 アイン高島台保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

第三者評価ありがとうございました。施設長として2回目の受審でしたが、改めて保育に向き合うことができ良い機会でした。子ども、保護者、職員に対しての想いを調査者二人と対話を通してまとめていくことができました。

評価結果を実際に拝見させてもらい、コメント等が前向きに書かれていて背中を押してもらえました。職員も自己評価に対して考えまとめて整理をしているように感じます。

今後も結果だけではなく、一歩動いていくことを意識しながら、評価していただいた内容に近づけるよう精進していきます。

《評価後取組んだ事として》

1. 第三者評価後にヒアリングや評価について、主任と振り返る
2. 中・長期計画の見直しと職員への発信
3. 来年度に向けて、地域への発信「保護者支援計画」の作成に取り組む。1回目を3月16日（土）に開催

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり